



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

第12回森林塾報告 テーマ「市場、建具店見学」

『ヒノキ柱材 一本二千元』

なんと、たった

片岡工務店さんが落札したヒノキ中玉3m、16〜18cm(末口)は材積が5.559立方で、本数は67本でした。価格は一万六千円。「世の中価格破壊が進み、今、牛丼が二



ケヤキは伐り倒して辺材が腐るまで5年くらいは山元に放置しておきます

百八十円だ、平日マックが六十五円だと言っています。が、材木の場合、このヒノキを例に取ると五年前の半値、一本二千元そこそこです。午前中にお邪魔した、県森

林組合連合会、伊那木材センターの大野田所長さんの、テナポの良い話し方の中に出てくるのは、どちらかといえば明るくない話。入札に

より、市況を作り出していくのが市場の使命とはいえず、もう少し何とかならないものかという思いは、傍目にも感じられました。

五十年かけて手入れし、育てたヒノキを切り出し、市場にかけたら元玉、中玉合わせても一万円にもならない、という事になってくるのです。パブルも困るけどデフレも考え物です。山のヒノキは泣いているのかそれとも苦笑しているのか。

スギの場合はさらに苦しく、今年この市場の柱取り材は平均立方単価で一万円を大きく割り込み、八千円程度になってしまっているとか。これではややもすると伐出や運材の代金も出ない、いかんともしがたい価格です。

樞番	品柄、規格、末口	本数	材積	落札業者	落札価格	指値
1	さわら 4m 30-32	4	1.540	ナベハウス	30,000	23,000
2	すぎ 4m 24-26	6	1.500	ナベハウス	20,000	15,000
3	ひのき 3m中 16-18	67	5.559	片岡工務店	26,100	26,000
4	すぎ 3m 13-18 柱取り	5	0.361	早川木材	9,500	7,000
5	からまつ 4m 54	1	1.166	OKホーム	83,000	38,000
6	あかまつ 10m 34	1	1.369	白壁林産	100,000	40,000
7	からまつ 4m 14-18	91	10.026	松ノ元組	9,000	9,000
8	あかまつ材 4m22-26	17	3.850	伴野建築	18,000	18,000
9	くり 4m 24-34	2	0.692	菅木工	26,500	40,000
10	けやき 3m 26	1	0.203	片岡工務店	21,100	21,000

日本の住宅着工数は百二十万戸から大きく増えることはしばらくはなさそうですが、45%ほどの木造率がせめて50%くらいまで上がったなら願っています。またこんな不安い国産材をふんだんに使った、竹内邸の様な住宅が増えればな、とも思います。田口さんの凛とした声が響く、本当の入札の時も今日のように



スギは心材が赤いほうが人気があります

百パーセント高値落札といきたいものです。午後の有賀建具店さん。森林塾で何って四年目になるのですが、初回の「木偏に反ると書いて板と読みます」に始まり、「丸太は長所を見て買います」など毎回蘊蓄のこもったお話をしてくれました。さて今回は「職人は動きが優しい」の一言だったのでないでしょうか。「仕事のできる職人さんは動きが柔らかくいく無駄がない。家具や建具は時間をかければ子供でも作れます。早く作るのが職人です」というご説明でした。たとえ親方の十倍の時間をかけても、同じような家具を作れるとはとても思えません。確かに、自分が納得のいくまで十分に時間をかけて作っているのは、作家が芸術家になっ



本番さながらの真剣さで入札する山師たち

てしまいます。限られた時間の中で、できる限りお客さんの要望にあう、使い易いものを作り、相応の代金をもらう、というのが職人さんでしょうか。相変

8時30分 島崎先生の山小屋集合。周辺の木は紅葉が始まっている。今日もお天気がいい。

早川さんから本日のスケジュール説明後、島崎先生、保科先生のあいさつ。

車に分乗し、伊那市東春近の長野県森林組合連合会、伊那木材センターに向けて出発

9時20分 木材センターの概要と、木材市場の仕組みを大野田所長から説明

わらず、木に対する愛着が感じられる、親方と原さん、小島さんのお話でした。保科先生の締めくくりのあいさつにもあったように、林業の、業としての厳しさを再認識させられる一日でしたが、建築材、家具、建具、そして木造住宅と、これから家を建てようかなとお考えの方には大いに参考になる話が聞かせてもらえたのではないのでしょうか。

今回の内容



雨水を集めた庭の池には小昆虫が住んでいた

をつける。
次に販売担当の田口さんからのお話。ここ数年間の市況の推移を見ると林産業者はますます厳しい仕事だと認識を新たにす。ヒノキなどは数年前の半値になっている。
市の仕事も、大野田所長が辰野木材センターと兼務なため、市にかける平均六百立方の材木の入荷、極積、検尺、等の実務はほとんど田口さん、柴さん



朝4時から夜10時まで働いて障子4本が昔の職人さんのノルマとか

の二人でやっているとの事
10時15分 土場に出る当日の模擬入札を行う材を見る。
前回の入札で既に売れていた物もあつたが、中には七月から売れていない物も。材も品質が重要か。
11時10分 屋内に戻り模擬入札。
通常なら一回



真冬でもけっこう暖かい40mmスギ板落とし込み

一分での入札。一回で五極の入札を行うので極数が百あれば、全部が二十分ですむ助定となる。しかし、我々の入札は実にゆっくりしたものだ。講師として大野田所長から、今回の入札は指値にきわめて近い落札だと感心された。「今年の皆さんは去年の方に比べて厳しいね」とのこと。でも100%

落札
11時30分 木材センターを後に、箕輪町吹上の竹内さん宅に向かう
12時 竹内さん宅に到着。敷地内で昼食。お味噌汁を振る舞ってもらう
1時 木をふんだんに使ったお家の説明を聞く。壁板が40mmの落とし込み工法で作られていて、長野県の蔵でよく使われている方法だという。
トイレをお借りしたが、トイレの戸も十数種類からの木板がはめられていて、それぞれ名前が彫つてあつた。いたる所にさまざまな木が使われていて、まさに木の家でした。台所の床はパインパークのアカマツの無垢、無塗装フローリング。ご自分で伐り倒し、床張りも大

工さんに教えてもらいなからご自分で苦労しながら張られたとか。良い風合いになってきました。
住み込まれて三年になりますがいまだに色々手を加え進化中です。今回も新たに東側にサンルームができていました
1時40分 竹内さん宅から徒歩五分ぐらいの所に有賀建具店へ。
三十年の歴史がある。親方、有賀恵一さんのお話によると、お子さんが合板を本物の木と思うようになってきたことに危機感を覚え、約十年前より方向転換され、さらに五年前からは国産材のみを使っておられるとのこと。木材の入手方法はさまざまで、市や材木屋ばかりでなく、知り合いより持ち込まれることも多いという。約六十種類の木のサンプルを見せていただきながら、それぞれの木の特徴を教そわる
3時 有賀建具店従業員、建具担当の原さん、家具担当の小島さんより、お仕事のお話を聞く。
4時15分 竹内さん宅前で解散。
市場の皆さん、建具店の皆さんお忙しいところありがとうございました。竹内さん、お味噌汁ごち

そうさまでした。
参加者/奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、佐藤誠さん、塩谷さん、島田さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、松永さん、松ノ元さん、松本さん、桃澤さん、森さん、山浦さん、渡辺さん、池田さん、則竹さん、金子さん、講師/保科先生、島崎先生、スタッフ/此村、坂野、早川



親方が山形県からもたらしたマドノコをみて白壁さん喜ぶ

次回以降の予定
Bコース秋の部 11月1日(木)〜3日(土)
森林調査(樹木分類、測樹)から間伐、伐出まで一連の作業を実践を通して身につけてもらいます。十八名の方が参加される予定です。

第13回 11月10日(土)
保科山林の見学
いくつかの希望が出ていますが、皆さんに伺ったところ、保科先生の山林見学の希望が多かったので、それにさせてもらいます。伐木造材希望者の方ごめんなさい。他県からのカラマツ林見学ツアーで必ず訪れる、入笠のカラマツ林ほか何箇所かを見せていただく予定です。ほかに救急救命法など

第14回 12月1日(土)
炭焼き、そばうち
ドラムカン窯などで炭焼きをしてみます。
例年、窯に炭材を仕込んで火をつけたら、そばうちを始めて、ちよつと遅くなりますが、お昼はそばを頂きましょう。そばだけでは不安な方、不満な方はお弁当持参のこと。
例年そばうち講師をしてくれるOB大野さんが今年はないのでどなたか講師をお願いします。(菅さんあたりかな)火の番をしつつ、夕方からは希望者による忘年会に突入というパターン。
窯出しは翌朝になりますので都合のつく方は朝までお付き合ってください。雑魚寝になります。シユラフあれば持参下さい。



リレー通信

えーっなんでワシに? 森 秀司



リレー通信の依頼メールが私のパソコンにほりり込まれていたのです。依頼人は早川さん。二千字くらいということなのですが、何号かで力アちゃんを書いていたらワシには順番は回ってこないと確信していたのに、それに私は文字も文章も理論もキライです。私には書くべき事柄も書きたいことも何も無いのです。カヌミみたいな頭を絞って面白い話が出てくるわけがないです。それでも書けというなら書きますが、(まあこの原稿はボツになって欲しいところ)もし読んでいて面白くないと思う方は怒りの矛先を森さんでも、ビン・ラディンでもなく早川さんに向けてくだ

さい、黒幕ですから。(これで三百字余りこなせたみたい)

皆さんに話して面白いと思われるような体験は私には見当たらないのですが、無理にひねり出してみますか。幾人かには話した記憶があるのて聞いたことのある方は容赦してください。題目は二つです。タマゲル、ということと木や石が私に微笑みかけたということ。

先ずタマゲルということ、魂消ると書きます、一般にはビックリすることと解釈されていますが本当に魂が消えるのです、いや私の場合は消える寸前までいったのです、というのならば若かりし頃私は一年半余り禅の専門道場でお世話になり雲水の生活をしていたことがありますが、そこでの話

どの独参の時間が近づくとつれづれツッパが高まってきます、そしていよいよ独参で、一人一人順番で師匠の前に出なければなりません。うまく気合の入った座禅のできなかったときなどは殊に悲惨な気分にはさせられます、諭えて言うなら口から手を突っ込まれ胃袋をワシ掴みにされるような、もしくは屠殺場に引かれていく動物の気分が理解できるようなそんな気分です。そんな独参の幾回かの時でした、一対一でらめつこのとき突然ものすごい一喝をくらったのですそのときのことでした。

あれっ、俺が点になってゆく。目は開いているから自分のからだは確かにある大きさに見えているのですが実感としては点になっていくとしか感じられないのです。後で思うにあれが魂消るといふことなんだと思つたことでした。昔の達人は梁の上のネズミをニラミ落したとか、呼吸をあわせて窒息死させたとかいう文を読んだことがありますが多分事実でしょう。

私の師匠は禅の坊さんではありませんが、四十歳過ぎまでは剣術家でもあり、終戦時には腹を切つて死のうとしたような人でしたから、相当な力量のある人でした。今は亡き懐かしい人です。

座禅というのは面白いもので、あるときなどは座つている自分が部屋いっぱい広がつたように感じたり、少し座れるようになり、接心もこなすようになってくると、道ですれ違ふ人が馬鹿に見えて仕方が無いという時期もあります、みんな魔境という奴です。

あと六百字余りですか、次は木や石ころが私に向かつて微笑みかけたという話です。

あれは私が二十二歳頃の出来事でした、あの頃は山登りをよくやっていました、寒いのは好きでないので夏山ばかりでしたが、ある時何を思ったのか八ヶ岳に登ろうと思つたのでした、それも十二月に一人で。ビックル、アイゼンを持っていたし、夏の八ヶ岳には幾回か登つていたからルートはしっかりと頭に入っているし、防寒さえしっかりすればどうということはない、という思いでした。で、一人で出かけたのでした。

まず赤岳鉱泉でキャンプを張り一泊、次の日は天気も良く雪の状態も悪くないので調子良く赤岳の頂上までいったのです。ところが帰り道とんでもない事態になったのでした。登るには登つたが何処から登つたのかが分からなくなつたのです。迷つた拳句、横岳のガレ場に出てしまつたのでした。ふつと前を見ると二十メートルくらいの絶壁で

す、(私にはそう感じたのです)横を見るとそこにはハーケンが。何回か飛び降りていて戻るに出来ないしは陽は傾いてくるしビバークする装備はないしでギョッとしましたね、俺はここで遭難するかもしれないと思つたものでした。(字数が足りなくなってきたので詳しい心理、状況描写はカットします。)

とにかく必死にもがいて無事テントまでたどり着いたのです。ドタツと雪の上に寝転んだときの俺は無事だつたという思い、至福とはこれかと思つたものでした。

かなり暗くなつてきたのでテントを撤収して帰るときのことです、普通なら暗くなりかけた山道を独りで歩いていて気持ちがいいはずはないのですがなんと回りの木や石ころが私に向かつて微笑みかけているのです。そうとしか思えない感覚が一時間ほど続いたのです。

後になつてお釈迦さんのいう山川草木悉皆成仏とはああいうことを言うのではないかと思つていて、それです。禅でいう大死一番絶後に甦るといふことなども一脈通じるものではないでしょうか。今は仏教を疑いません。

「私にはそう感じたのです」横を見るとそこにはハーケンが。何回か飛び降りていて戻るに出来ないしは陽は傾いてくるしビバークする装備はないしでギョッとしましたね、俺はここで遭難するかもしれないと思つたものでした。(字数が足りなくなってきたので詳しい心理、状況描写はカットします。)

こんな思いを持って私の口に合わないローメンの伊那に通う事になる。お天気回りが良く、平日に雨、仕事を休んで来る土曜日は晴れの楽しい日々が続く。

第一章 自己紹介

信州生まれのUターン組にて平成六年に今の組合に現場作業員として雇用される。新規若手?採用との流れに乗りイター三名とともに十数名の仲間に入る。上は六十八歳から二十三歳までの構成に、「あの年齢まで山では働けるんだ!」との第一印象。

帰郷後はまず生活の為に卸売商社に勤める傍ら、どうしてもやりたかつた山岳の道へ足を突っ込む、信州のある老舗山岳会へ入会。関係ないよ

リレー通信

山遊びと山仕事

渡辺 澄男

プロローグ

「森林組合の方がなぜ森林塾へ参加されるのですか?」との美人インストラの質問に、グチめいた答えをした自分が惨めでもあった。

請負日当の負の部分でもある裏ワザがまかり通り、評価が見えない本流を離れた仕事に流され、遠ざかる仕事の技術は薄れていく。

うだが青春を楽しんだ活動の一端を紹介します。(山行目的、目標、トレーニング、計画書、報告書、学習会など)ソフト面を山行以上に重視した会であり、同じ目的の仲間や職場以外の人と接する場の充実した日々であった。

毎週のように組まれる山行と年に四回行なわれる合宿は年度初めに組まれており、合宿への参加は「義務」であり、「休みを取って参加するもの」という軍隊的集団であったが、ツキヨタケ、カキシメジなどを誤食するという間の抜けた一面を持つ人間くさい会にたっぷりと浸る。「レクリエーション」という言葉の位置付けに、授業と授業との間の休み時間、休み時間は単なる空白の時間ではなく、前の授業の疲れを癒し、次の活力を準備する大切な時間であるとの事、まさに登山はそのものであった。社会よ！急ぎすぎずに無駄な回り道もしよう。

こんな山登り中心の様な中で、薄れ始めた自分や他人への厳しさを再確認し、また自



然との付き合い方を少々培う。相手には口がない、口ベタの私には相性が良い様だ。「しょせん山は遊びであり、自己満足の世界」と考えているが、山ヤ特有の感性の深さと、自然への畏敬の念を持ち、映画「ガイヤシンホニー」を見、感動し、TV「プロジェクトX」を見、涙を流し、「沈黙の春」を読み、森の中で働いている。山の中のうつつとしいハエやヤブ蚊の現実を知っているも山にいます。

さて話を元に戻し仕事について話を聞く。これまで林業は職業という枠から完全に抜けていた認識から、もっぱら仕事内容よりも収入のことが話題になり、「体を泣かせればそれなりに収入もある」との答えにグラツと気持ちちは動くが、彼のライフスタイルは、夏には山小屋や常駐隊として滝沢にいますかと思うと、バイクで北へ南へと走り、山仕事もする多種多様な生活の為に、参考話となるが、三年後に「植栽から素材生産までの一連の仕事」をしたく飛び込む、古きより人脈による半農半材業の構成員から、プロ技術集団に変えたいという理想に向かう時期であったと信じていた。

第二章 池の中の蛙

ここで職場の特徴と地域性について思う。ご存じ組合は「森林所有者の経済的地位の向上を図る」という協同組合的性格とともに、森林の持続培養と森林生産力の増進を図るという公益的な性格を持つ組織とある。(森林の百科事典より)我が地でも所有者の正義の味方である筈だが、なかなか助けを求めに出来ないさみしい現実である。互に問題を抱えてはいるが、第一線で働く人の意識改革は遅れながらも進んでいる。現場での最後のサジ加減が、数量的表現が困難である森には必要だ。「薬剤師、芸術家、山へおいでよ！」

今年より始まった他業者の参入については賛否両論であるが、「年百時間の講座」では不十分との意見に一言、あの単位の基礎を受けていない現場の環境や個人差がある現実を知っていただきたい。独学とこの塾での職人技を土産に帰る、組み立て活用させてもらっている。私の「ボラントピア」である。

地理的特徴

雪は積もるが比較的暖かく、ソヨゴ、シラカシも多く見られる。標高三百五十m程の盆地より浅い急峻な山が始まり、都市化の住宅や畑と接する山が多く、夏の暑さや作業面においての「厄介な動物」との難題が加わる。子守りの

できない木は「ジャマモノ」であり、支障木伐採の仕事も多い。その木の行先は四トン車程度の大きなガラパゴス(シュレッダー)に吸い込まれる。だが夢のある保育事業も幸いあり、この数年、五、十町歩ほどの植栽が続き、苗の成長を見るのが楽しくなっている。夏場の短期間における低地での仕事と集中してしまいう作業は想像を越えるが、仕事があるだけ幸せ」と洗脳されつつある。山粧う秋ではあるが、今日も3Kの現場へ向かう。

次回第三章より

コラム

今回の森林塾 本当によい天気でした。数少ない今年の秋晴れが見事に当たりました。この時期は、晴れば晴れるほど冷え込みが強まり、朝の気温は一けた台がいつの間にかやが普通になってしまいました。伊那より暖かい所からいらしている方々には、次の回も晴れることを祈りつつ、念入りの防寒対策をお勧めいたします。

さて、このコラムを書き始めるにあたって、伊那のおいしいお店の紹介などを盛り込めたらという話もありました。が、まだ在任一年と期間も短くないにあまり外食をしない夕チなので残念ながら皆さんに情報を提供するに至っておりません。

伊那の名物といえば、雑誌などにはたいていローメンなるものが紹介されているのですが、もうご試食済みでしょうか？他では聞き慣れない確かに伊那独特の料理だと思えますが、お味のほうは好き嫌いがあってもいいかもしれません。店によってもいろいろな味のローメンを出しているの、味の説明もうまくできないのですが、決してグルメではない私「の」後ろに？がついてしま

おいしい」と太鼓判を押して私に紹介してください。他には三大珍味なる「はちのこ」「ざざむし」「いなこ」でしょうか。山間部では「はちいなこ」類はおなじみですが、「ざざむし」は天竜川で取れる川虫の佃煮で、春先のまだ水の冷たい頃に行われる「ざざむし漁」は伊那の風物詩にあげられています。もう漁をする人もわずかだそうですが、いずれも未体験ですが、佃煮なので味というより見た目と食感の問題だと思われま

そんなわけで私がお勧めできるのは、新しく伊那の味として定着し始めた「ダチョウ」です。みはらしファーム内の羽広荘で食べましたが、最近一部のスーパにも並ぶようになりまして、伊那産だけに新鮮さが売りで、刺身がおいしいです。ぜひ一度ご賞味あれ。「テッカマン」

「おわりに」

ここ三年ほど暖かい秋が続いていてきつちりした紅葉が見られませんが、どうやら今年もそうらしい。きれいな紅葉には、十分な日照、昼夜の気温差、そこそこの雨などの条件が必要だそうですが、朝晩の冷え込みはまだ足りないようです。それでもそろそろ島崎先生の山小屋辺りまで下がってきた感じが。鳩吹公園のニシキギやドウダンが紅く染まってきました。伊那界隈の里山は紅葉樹が多いためまとまった紅葉を見るには少し奥まで行かなくてはなりません。カツラやダンコウバイの透き通るような黄葉、コナラの地味だけれども落ち着いた黄葉、サクラの黄から赤への色の変化など、楽しむ余裕を持ちたいものです。そうそう、タラノキやヤマウルシ、トチノキなどの複葉の落葉をこの機会に観察して下さいね。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。 TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp mi-tsuboki@koanet.co.jp 携帯:0902-53-26375 (開催日) H.P.http://www.koanet.co.jp

